

2024年度チャレンジ講座(第3回)を実施しました

6月19日(水曜日)、第3回チャレンジ講座を実施しました。今回は、福祉健康学部の工藤修一先生に「社会福祉・ソーシャルワークへの誘い(いざない)」と題して講義していただきました。

『あたり前』は『あたり前』ではない、日本は素晴らしい国。最初に先生は日本をこのように表現しました。社会福祉制度は支えあいのしくみのひとつであり、この制度がなければ人生は苦難の連続であること、直接支えているのが医療や福祉の専門職であり、極めてやりがいのある仕事である、と紹介されました。



特に印象深いのは次の質問でした。「漢字テストです。『しょうがいしゃ』を漢字で書いてください。一部ひらがな使用可です」。生徒それぞれが考えた漢字・ひらがなをあてはめた後に、さらに次の質問「みなさんは空を飛べますか？空を飛べなくて困りませんか？それではなぜ飛べなくて困らないのでしょうか？それはみんな飛べないからです。それでは、みんな飛べないとなぜ困らないのでしょうか？」と生徒に投げかけました。答えは「空を飛べないことを前提に社会が構築(設計)されているからです」。

この考えをもとに、「聴覚障害や車椅子ユーザーの生活のしづらさは、何が原因でしょうか」と具体的な質問が出されました。先生が「聞こえないことや歩くことができないという『障害』はその人の心身にだけ起因しているのではなく、社会にも原因があるのです」と説明されました。生活の不自由は環境によってもたらされるという考え方を「社会モデル」といい、社会が「害」をもたらしているので「障害者」と書くこともできるという説明でした。社会は多数に合わせた生活設計がされていることを知り、生徒たちが視点を変えて考えることが大切さを学んだ瞬間でした。

犯罪者支援の必要性＝社会因子

- 1 安心社会の構築(再犯防止による社会防衛)
(1)世界最初の生活保護であるエリザベス救貧法(英:1601年)成立の大きなきっかけは、貧民の増加で犯罪が増えたこと。
(2)犯罪の社会因子(『犯罪白書』等)
(3)服役者のうち再入者は約60%。
(4)29歳以下再入者の中で、少年院送致や保護観察など保護処分歴のある者は約60%。
(5)保護処分歴のある者の傾向
①貧困世帯 ②被虐待経験など

また、犯罪者支援の必要性も具体例を出しながら分かりやすく説明していただきました。今回、障害のある方、犯罪者の方など生活に困っている方々と社会や相談機関などをつなぐ役割がソーシャルワーカーであることが分かりました。見えないところを見るようにする、この人がこの後どうなるか想像力を働かせて対応を考え行動するなど、社会福祉に携わる人たちの大切さを学びました。

今回は23の高校から260名が受講しました。受講者の感想を紹介します。

〇とても興味深い講座でした。「しょうがいしゃ」を漢字で書くとき、普段は「がい」をひらがなで書いていました。漢字にするとその人に害があるように感じられてよくないと思っていたからです。ですが今回の講座を受講して、この社会は歩ける、聞こえる、見える、話せることを前提に構築されているのだと知ることができ、新しい考え方を得ることができたことに感動でいっぱいです。ウォシュレットやスマホなど、身近な例を示していただけたのでとてもわかりやすく、より興味を惹かれました。ありがとうございました。

実践に強い＝徹底した実践教育

【模擬カンファレンス(チュートリアル)】

- ◇チュートリアルⅠ＝社会福祉コースでのカンファ
- ◇チュートリアルⅡ＝福祉健康科学部3コース合同のカンファ
- ◇チュートリアルⅢ＝福祉健康科学部と医学部との合同カンファ

福祉・リハ・心理・医師・看護師の5分野の学生カンファをカリキュラム化しているのは全国で本学だけ！

2022年度国家試験結果(新卒＋既卒)

- ◇社会福祉士(全国平均合格率29.3%)
1位 大分大学(94.4%・全国205校中1位)
⇒新卒合格率100%
【九州内順位】＝他大学を圧倒
2位 琉球大学(75.0%)
3位 福岡県立大学(66.3%)
- ◇精神保健福祉士(全国平均合格率71.1%)
大分大学(100%)＝10年連続

本学に入学して
「あ・た・ま」を鍛えませんか？

「あ」かるく
「た」のしく
「ま」えむきに

「あ」きらめず
「た」めらわず
「ま」つつぐら

※今回の記事(講義概要)は、中津南高校が担当しました。